

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0288
施設名	愛光大和田保育園
施設所在地	東京都八王子市大和田町5-9-4
法人名	社会福祉法人 愛光学舎

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物について

<テーマの設定理由>

子どもたちが絵本「だいどころのたね」に興味を示し、いろいろな種を集めたことをきっかけに植物について探究活動を行うことにした。

### 2. 活動スケジュール

野菜、果物に種があることを知る 5月22日

いろいろな種を集めよう 5月～6月

種から芽が出るかな？育ててみよう 8月20日

果実の実や種について知る 11月18日

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】絵本「だいどころのたね」の絵本から野菜や果物など、様々な種類の種があることを知る。家庭での食事や園の給食で使用している食材にもたくさんの種があることをイメージできるように絵本や写真を設定した。みかん狩りに出かけ果実（みかん）について興味を持ち探求した。

【素材】絵本「だいどころのたね」「みかんのひみつ」、プランター、様々な種、土、肥料、みかん

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

調理や食事の際に出た野菜や果物を植えたら芽が出るか。さらに実はなるまで育てることはできるか？を実験した。給食の食材のオレンジ、ミニトマト、メロン、スイカ、ピーマン、かぼちゃ、梅干し、パプリカなど、身近な食材にも種がたくさんあることを知る。家庭から「これも植えてみたい」と種を持参してくる子どももいた。みかんの観察、探求活動では、みかん狩りを計画していたがあいにくの雨となってしまったため、畑の近くのまではバスで出かけ、職員がみかん畑で購入したみかんと絵本、顕微鏡を用いて観察、探求活動を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

散歩で見つけた種が何の種か疑問を持ち、「植えてみたい」と言うのでどんな芽が出てくるのか実際に植えてみた。給食のスープに入っていた「ゴマ」も「種か？」という子供の疑問に対し、植えてみることを提案し植えてみることになった。結果芽は出なかったが、子どもたちが調べた結果ゴマも種であることを知った。ピーマン、パプリカに芽が出て葉が大きく生長し花が咲き実がなったことを喜ぶ一方なかなか芽が出ない種もあり、子どもたちは発芽させる難しさを感じていた。みかんのへたの裏にある筋と、房の数が同じ数なのか検証した際に、へたがうまく取れずにいた。すると子どもから「採れたばかりの新鮮なみかんは下手がとりにくい」こと「古いみかんはすぐにへたが取れるという言葉が聞かれた。房の果実の粒はいったい何粒あるんだろうの問いに、数えて見ることになった。「一粒の中にみかんジュース（果汁）が入っている」という声や粒にも大きさに違いがあること、一房には200粒以上の粒があることに気づくことができた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの観察力や「どうなるかな？」などの探究心に驚かされることが多くあった。給食のスープに入っていた「ゴマ」も「種か？」という子供の疑問に対し、植えてみることを提案し植えてみることになった。結果芽は出なかったが、子どもたちが調べた結果ゴマも種であることを知った。その後ゴマも種ではあるが、熱が入り調理されたものだと発芽しないことが調べてみて分かった。はじまりは「種」であったが、種への興味を持つとともに、食材そのものへの関心を持つことができたと感じる。